

一般社団法人

千葉県言語聴覚士会ニュース



NO. 44 2014年3月22日

目 次

総会のお知らせ	1	匠の技	7
学術局から	2	各委員会・作業部会から	9
ひとくちコラム	4	事務局から	11
施設紹介	5	理事会・委員会等報告	12
臨床こぼれ話	6		

リハビリテーション公開講座が雪のため、4月25日に延期になりました。

★☆★ 一般社団法人千葉県言語聴覚士会 ★☆★

★☆★ 第3回総会のお知らせ ★☆★

一般社団法人千葉県言語聴覚士会第3回総会・平成26年度第1回研修会を5月18日（日）に開催いたします。

本会は、一般社団法人千葉県言語聴覚士会として千葉県言語聴覚士会を継承し、3年目を迎えます。この間、規則の整備、事務所移転など、会としての基盤を固めるとともに、キャラクターを制定し、「千葉県言語聴覚の日」を開催する等、一般市民の方々への啓発を進めるための方策も実施してまいりました。

平成26年度は、引き続き言語聴覚士に対する一般市民への啓発を図るとともに、職能団体として、会員のニーズにあった活動をさらに充実させていくことが必要です。総会は今後の方向性を決める重要な場ですので、会員の皆様にご出席いただきますよう、お願ひいたします。

総会後には第1回研修会を開催します。今回は、症例を診るにあたって言語聴覚士として必要な知識を学べるように、袖ヶ浦さつき台病院のリハビリテーション専門医である竹内正人先生にご講演を頂きます。症例の全体像を把握するために言語聴覚士として必要な対応、およびICFの活用等について、貴重なお話を伺うことができる機会ですので、皆様お誘い合わせの上ご参加くださいますよう、併せてお願ひいたします。

日時：平成26年5月18日（日）

13：00～14：00 一般社団法人千葉県言語聴覚士会第3回総会

14：15～16：00 平成26年度 第1回研修会

16：10～17：00 懇親会

場所：千葉大学医学部附属病院 3階 第1・3講堂

◇ 学術局から ◇

学術局 酒井 謙

1. 平成26年度第1回研修会のお知らせ

今回は、講師に袖ヶ浦さつき台病院のリハビリテーション専門医である竹内正人先生をお招きします。竹内先生は長年急性期のリハビリテーションに携わりながら、総合広域リハケアセンターを立ち上げ、入院をきっかけに長年の生活習慣や家族関係、廃用や老年症候群などの悪循環を良循環に転換する、質の高いリハケアプログラムの提供を実践していらっしゃいます。今回は ICF を用いた全体像の把握や予後予測等について、具体的な症例を交えながらご講演くださいます。

また、講演会後には、新入会員をお迎えし、懇親会を開きます。日頃の臨床に関する情報交換はもちろん、皆様にとりまして楽しく有意義な時間になりますことを願っております。会員の皆様はもちろん、会員外の方へもお誘いあわせの上、ご参加ください。

* 日時：平成26年5月18日（日） 14時15分～16時00分

* 会場：千葉大学医学部附属病院3階 第1・3講堂（予定）

* 内容

I. 講演会 [14:15～16:00] 第1講堂

「ICF を用いた全体像の把握と予後予測（仮）」

講師：袖ヶ浦さつき台病院 総合広域リハケアセンター センター長

リハビリテーション専門医 竹内 正人 先生

II. 懇親会 [16:10～17:00] 第3講堂

* 申し込み方法：詳しくは同封の申込書をご覧ください。

2. 第3回研修会報告

平成26年1月19日（日）に順天堂大学医学部附属浦安病院で第3回研修会を開催しました。今回は、摂食嚥下障害をテーマに症例検討会を行いました。その後、発表者と講師を囲んで、日頃の臨床の悩みを共有しあう情報交換会を行いました。参加者は48名（会員33名、会員外15名）でした。研修会の概要と、アンケート結果の一部を紹介します。

研修会の概要

演題：「複合的訓練が奏功し音声表出及び経口摂取が可能となった1症例」

発表者：平和台病院 小田 薫 先生

概要：脳梗塞の再発後、複合的訓練を施行した結果、有声音の表出及び経口摂取が可能となった症例についてご報告いただきました。症例は80代男性、脳梗塞の再発後に発動性の低下や発声機能の障害、摂食嚥下障害を呈していたものの、離床訓練や歩行訓練と併行して、発声訓練や頭部挙上訓練、直接訓

練を実施することで、発声機能や嚥下機能に改善が認められた経緯が説明されました。また、症例報告後の質疑応答や情報交換会では、口腔機能訓練や意識レベルの影響等について意見交換が行われました。

演題：「嚥下障害を呈した封入対筋炎の1例」

発表者：順天堂大学医学部附属浦安病院 早坂 さち 先生

概要：封入対筋炎により嚥下障害を呈した症例に対し、筋力増強訓練を施行した結果、経口摂取が可能となった症例についてご報告いただきました。症例は70代男性、封入対筋炎に伴う嚥下障害により誤嚥性肺炎を併発したものの、頭部拳上訓練や開口訓練を実施することで、嚥下機能に改善が認められた経緯が説明されました。また、症例報告後の質疑応答や情報交換会では、バルーン訓練法や間欠的栄養法等について意見交換が行われました。

助言者・講師：日本歯科大学附属病院 口腔リハビリテーション科 西脇 恵子 先生

演題：「口腔内の見方 ポイントとリハビリテーション」

概要：ご講義をはじめる前に、演題で報告されたお二人の症例について助言をいただきました。講演では、口腔内所見を静的所見、動的所見、感覚に分けて説明され、嚥下のリハビリテーションを運動の原理に基づきご講演いただきました。またそれぞれの障害を切り離さずに考える視点や、訓練時の留意点も交えてご講演いただき、大変有益な機会となりました。また講演後の情報交換会にもご参加くださいり、多くの先生方との意見交換が行われました。

アンケート結果（回収35）

①研修会に参加して

とても良かった 30名、普通 4名、期待していた内容と異なった 1名

具体的に：

- ・症状の捉え方、訓練の進め方などを改めて見直すことができました。
- ・日常の臨床でつい忘がちな基本的事項をブラッシュアップするいい機会になりました。

②今後の研修会や本会の活動について

- ・急性期における失語症の評価、訓練について
- ・高次脳機能障害を呈した方の職場復帰までの経緯
- ・脳画像や嚥下造影検査の見方

学術局より<研修会を終えて>

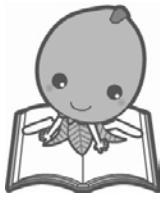
今回の研修会は、症例検討会と情報交換会を行いました。臨床経験5年未満である先生方の参加が多く、若いS.T.の臨床に対する積極的な取り組みや、問題意識の高さが窺えました。発表者のお二人、助言者の西脇先生、ありがとうございました。今回の研修会が、ご参加いただきました皆様の臨床の一助になれますよう願っております。

3. [研修会の症例発表者募集]

今年度の研修会での症例発表者を募集します。日頃の臨床で悩んでいる症例などありましたら、是非ご検討ください。皆様の積極的な提案をお待ちしています。詳しくは本会ホームページにお問い合わせください。

4. 「地域の勉強会」での症例検討会に参加しませんか？

会員の皆様のご協力により、各地域で勉強会が開催されています。ホームページの「小児多職種合同勉強会」、「地域勉強会」をご参照の上ご参加ください。



三三三 きこえに関するひとくちコラム 三三三

・・・・聴覚障害委員会・・・・

前回は主に成人を対象とした情報保障についてご紹介しました。小児では学校などの集団場面において、どのような配慮があると良いのでしょうか。

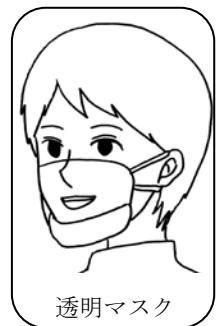
情報保障って何をすればいいの？ ②小児編

教室文字での情報を多くするため、重要な事や連絡事項等は板書・プリントなどを多く使ってもらうと良いでしょう。大学ではノートテイクのボランティア等を利用する方法もあります。幼稚園・保育園でいつも歌う歌は、リズムが分かっても歌詞や音程が分からぬ場合もあるので、歌詞カードや楽譜・CDをもらって家で確認しても良いでしょう。担任の先生がマスクをしてしまうと口元が見えなくなります。透明なマスクも販売されているので、風邪などの流行時期でどうしてもマスクが必要な時期にはそれを使ってもらうのも良いでしょう。また、FM補聴器の利用も検討します。

全体集会体育館の様に広い所でマイクを使った話を補聴器で聞き取るのは困難です。

FMシステムを使ったり、話す内容が事前に分かっている場合はそれをプリントにしてもらったりすると分かりやすいでしょう。また隣に先生についてもらい話の内容を教えてもらう場合もあります。

非常時や連絡学校では、連絡事項を電光掲示板に流したり、チャイムや非常ベルはランプで知らせたり、視覚的に情報が得られるようになっています。





施 設 紹 介



創進会みつわ台総合病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ S T 荒木 謙太郎

当院は千葉市の中央に位置する、回復期病棟 50 床をもつ全 261 床の急性期総合病院です。平成 15 年に千葉県内でもいち早く回復期リハビリテーション病棟を立ち上げ、「全ての患者様に安心・安全で最良のリハビリテーションを提供する」を理念としてリハビリ医療に力を注いで参りました。PT27 名、OT15 名、ST3 名、助手 2 名の大所帯で、共に笑い、共に悩み、共に成長する、大家族のような雰囲気の中、毎日業務に当たっております。ST は、失語症、高次脳機能障害、構音障害、嚥下障害の患者様の評価・訓練を担当しております。診療以外では、毎週月・火・金曜日に行われる各病棟カンファレンスや NST に参加し、治療方針、退院先、今後の予定などを、多職種で話し合っています。ST では、ブログで「リハビリ奮闘記」の編集にも携わっておりますので、ご興味がございましたらアクセスして下さい。

今後も少しでも患者様のお役に立てるよう、精進して参ります。

〒264-0021 千葉市若葉区若松町531-486 TEL: 043-251-3030

医療法人社団東光会 茂原中央病院 ST 吉山 晋平

当院は戸田中央医科グループ (TMG) の 1 つで昭和 54 年から地域密着型の病院として運営しています。療養型病床 108 床、一般病床 57 床、計 165 床で稼働しています。患者様から、地域の方々から、そして職員から愛し愛されることを目指しています。

リハビリテーション科は、PT30名、OT22名、ST5名、事務3名、看護師1名、マッサージ師2名が在籍しています。入院・外来・訪問・通所リハビリを実施しており、脳血管障害から神経難病、廃用症候群による嚥下障害の方など様々な疾患の方のリハビリを行っています。当院を退院された方には、退院直後から外来・訪問・通所リハビリを実施し、入院から自宅退院後まで一貫したリハビリが可能となっています。訪問・通所リハビリは茂原市・長生村・一宮町・長南町・睦沢町・長柄町・白子町に在住の方が主な対象です。ケアマネージャーや主治医などと連絡を密に行ったり、歯科医によりVEを行なってもらったりなど多職種・地域機関と連携してリハビリを進めています。

業務外では専門的な勉強会の他、他職種領域の勉強会など毎週何らかの勉強会が開催されています。また、大運動会・ソフトボール大会・新入職員歓迎会等イベントにより楽しいひと時を過ごすなど、チーム力が高い病院です。

これからもチーム一丸となって、患者様・利用者様・ご家族様に質の高い治療の提供・生活のお力になることを目指し努力していきます。

〒297-0035 千葉県茂原市下永吉796 TEL: 0475-24-1191

臨床こぼれ話

★★★ 「どよーん」を共有してくださる方、募集中 ★★★

帝京平成大学 言語聴覚学科 廣實真弓

臨床経験を振り返ると、若い頃は今よりももっと失敗をしていたと思います。申し訳ないことだと思います。失敗の度に落ち込みました。先輩達からたくさんのアドバイスをいただきました。しかし若い頃の失敗というのは、年齢を重ねてみれば、どれもキラキラ光る宝物です。東京在住の患者様が「えび（海老）」と言えずに「いび」とおっしゃるので一生懸命訓練をしました。ところがその方は「え」と「い」の区別がない地域の出身で、病前から「えび」を「いび」とおっしゃっていた方でした。情報収集が不十分ですみませんでした、貴重な時間をすみませんでした、と心から反省したことを今ではっきり覚えています。一方、臨床経験を積んでからの失敗というのはキラキラ光ってはくれません。「どよーん」「ズッシリ」という感じです。LSVT（リー・シルバーマン法）は最近では国家試験に出題されるほど有名になりました。LSVTのおかげで私たちはパーキンソン病の声量低下を改善することができるようになりました。LSVTの効果が知られていない時には、「声量低下は身体の障害に比べるとたいしたことはない」、「声量低下について悩んでいるなんていう患者はいないよ」と他職種から言われていました。私はSTなので声量低下がたいした問題ではないと思ったことはありませんでしたが、確かに声量低下について困っていると訴えない患者様もいます。Aさんがそうでした。Aさんは声量低下が著しく、仲の良いご主人との会話でも、もっぱらうなずきで意思を伝えていた患者様でした。LSVTを開始し3週間程過ぎた頃だったと思います。病棟にAさんを迎えて驚きました。ご主人にさえ発話することを疎ましく思っていた方が、同じ病室の他の患者様と単語レベルではありました、笑顔で世間話をしていたのですから。Aさんは声が出なくなってしまった、周囲には最小限のことだけを伝達していたとのことでした。発話することはうつとうしいことだったのだそうです。進行性の疾患の場合には、患者様自身でさえ気づかぬうちに、いろんなことを「しょうがない」とあきらめていくのだと思います。そのため「何か困っていることはありますか」という問診は時としてナンセンスなのです。困っているということはあきらめていないということでもあるからです。あきらめていく患者様を見て、私たちは「障害の受容」が進んだと勘違いしてしまう場合もあるのだと思います。むだ話は生活の潤滑油でした。潤滑油のおかげでしょうか。その方は訓練終了後車いすを走らせて1人で外出するようになりました。

ここ何年かで私は立て続けに強力な介入法と出会いました。それがLSVTとCPA-J(Care Program Approach in Japan)でした。CPA-Jという多職種チームアプローチを導入し、高次脳機能障害者の自発性低下や、障害の認識への気づきに対し以前よりうまくご指導できるようになったと実感しています。今まで介入できなかつたことに対し、新たな訓練法や新たな枠組みを導入することで、お役に立てたなと実感できた時は、セラピストとして本当に嬉しい瞬間です。しかし同時に「なんで今まで気付けなかつたのだろう」「なんで今までそのスキルを獲得できなかつたのだろう」「なんと時間がかかってしまったのだろう」等と後悔しきりで、「どよーん」と落ち込んでしまう瞬間もあります。

しかしSTが「どよーん」としてばかりではいられない！ですし、また私と同じことを繰り返して欲しくないとの思いで、よれよれになりながらも「どよーん」を語り続けています。ただ「どよーん」は時としてひとりではかかえきれないため、共有していただける方を募集中です。



○●○ 栄養管理総まとめ ○●○

君津中央病院 薬剤科

NST専門療法士

大木 健史

今回は、まず高齢者の栄養管理について考えたいと思います。

2012年に65歳以上の高齢化率は24%を超え、75歳以上も11.9%に到達し、日本は文字通り「高齢社会」になりました。しかしながら平均寿命の長さだけが注目される時代はすでに終り、今は、まさに「健康寿命」の長さが重要視されています。この健康寿命の延長に栄養とリハビリテーションの果たす役割は大きいといえます。実際に、私たちの病院でもNSTに症例として挙がる患者さんのはとんどが75歳以上の高齢者です。

高齢者の栄養不足の特徴として、タンパク質の摂取不足があります。エネルギー必要量は加齢とともに低下しますが、タンパク質の必要量はあまり変わりません(1~1.2g/kg/日)。ただし、加齢による腎機能の低下も考慮しなければならず、採血でのBUN(尿素窒素)の値にも注意する必要があります。急速に数値が上昇する場合もあり、必ずしも全員にこれだけのタンパク質を投与できるというものではありません。

そしてもう一つ、栄養の投与量に注意しなければいけないものに悪液質というものがあります。がん悪液質の定義としては、10%以上の体重減少、CRP>1.0mg/dlといったものが示されています。担がん状態では、癌細胞から產生される炎症を引き起こすホルモンなどの影響で、1日に必要なエネルギーの消費量が増大し、栄養摂取量が落ちると、容易に体重減少が進みます。昨今、早期からの緩和ケアが叫ばれ、がんを告知されたその日から、あらゆる面でのケアの必要性がうたわれています。栄養管理もその重要な一つです。がん治療を完遂させるためにも、栄養をきちんと管理していくことは必須です。ただし、ある地点を過ぎると、患者は栄養を必要としなくなります。それが、がん悪液質の状態です。その時に必要な摂取カロリーは200~600kcalと言われています。過剰な栄養は、浮腫を生み、呼吸を苦しくして、患者のQOLを著しく下げることになります。いずれにせよ、常に患者さんの状態の変化に、注意を払うことが大切です。

さて、今回は最終回です。これまでの話のおさらいとして、いくつか問題を用意しました。前回までの話を読み返して頂きながら、少し考えてみて下さい。

問1 75歳、身長143cm、体重40kgの女性の理想体重はどれか。

- ① 35kg
- ② 40kg
- ③ 45kg
- ④ 50kg

問2 廃用症候群の問1の患者さんの1日の必要エネルギー量はいくらか。特に侵襲は無いものとする。

- ① 800kcal
- ② 1000kcal
- ③ 1200kcal
- ④ 1400kcal

問3 この患者の身体計測の結果、上腕周囲：19.8cm、上腕三頭筋皮下脂肪厚：12mmであった。上腕筋肉周囲長を計算せよ。（ $\pi = 3.14$ として計算）

- ① 12.8cm
- ② 14.0cm
- ③ 15.4cm
- ④ 17.2cm

いかがですか。問1は理想体重 (kg) = 身長 (m) × 身長 (m) × 2.2 ですから $1.43 \times 1.43 \times 2.2 = 4.5$ で答えは③です。問2では、理想体重で計算するか、実体重で計算するべきか悩むところです。現体重が理想体重を上回っているときはカロリーオーバーにならないように理想体重で計算することが多いですが、逆に現体重が理想体重を下回っている場合には、あえて太らせた状態を目標にするよりも、現体重での必要エネルギーを計算するか、または、その間の数値をとって計算します。したがってこの場合は、侵襲の無い廃用症候群の方の1日の必要エネルギー量 = 体重 × 2.5 (kcal) と計算して、 $(40 \sim 42.5) \times 2.5 = 1000 \sim 1062.5$ (kcal) ですので、答えは②となります。問3の上腕筋肉周囲長 (AMC) は、上腕周囲 (AC) - $0.314 \times$ 上腕三頭筋皮下脂肪厚 (TSF) で求めますので、 $19.8 - (0.314 \times 12) = 15.4$ で答えは③です。

最後に、2月27日、28日に横浜で第29回日本静脈経腸栄養学会学術集会が開催されました。参加された方もいらっしゃると思います。学会名が長くて分かりにくいけれど、端的にいえば、NSTの活動をリードし支援している学会です。今回は「リハビリテーションと栄養」、「サルコペニアの評価と介入」、「摂食・嘔下障害」、「高齢者の栄養管理」、「経口摂取移行の工夫」など、栄養を管理していく上でリハビリテーションの重要性をテーマにした発表演題が数多く見られました。食べたくないのか、食べられないのか？それはなぜか？どうしたら食べられるのか？考えれば考えるほど、多職種の介入が必要になります。

私たち薬剤師は、そこに薬剤が関与していないか？また、それが疑われる場合には、代替の方法は無いか？そもそもその薬剤は必要か？といったことを常に考え、場合によっては、主治医に対して提言をすることになります。栄養の摂取は初めにもお話ししましたが、できる限り経口でというのが理想です。口から食べられなくなったら、もう死んだ方がいいとおっしゃられる患者さんもいらっしゃいます。「アウトカムはQOLしかない！」と、日本静脈経腸栄養学会理事長で藤田保健衛生大学医学部教授の東口高志先生が話されていました。“‘全ては患者さんに喜んでもらえてなんぼ！’” ということでしょう。

さあ、また明日からも、患者さんの笑顔のために一緒に力を合わせて頑張りましょう。

(終)

◇ 各委員会・作業部会から ◇

◎○◎リハビリテーション公開講座実行委員会◎○◎

* 2月8日に開催予定でしたが、雪のため、4月25日（金）夜に延期となりました。

「第7回リハビリテーション公開講座」のご案内

『みんなで考える脳卒中・在宅編～楽らく介護とリハビリのポイント～』

基調講演：「脳卒中の再発を予防しすこやかに暮らすために」

千葉県リハ医学懇話会

東京湾岸リハビリテーション病院 リハビリテーション科 松浦大輔 医師

講 演：「身体と言葉の障害を乗り越えて」

千葉県失語症友の会協議会 会長 横田清 氏

「安定した暮らしを作るために～身体のリハビリと生活リズム作り～」

千葉県理学療法士会 大曾根厚人 氏（セコメディック病院）

「できることを増やし、楽しい在宅生活を送りましょう」

千葉県作業療法士会 古城哲也 氏（介護老人保健施設フェルマータ船橋）

「嚥下のしくみと肺炎予防～安全に食べるポイント～」

千葉県言語聴覚士会 高野麻美 氏（船橋市立リハビリテーション病院）

日 時：平成26年4月25日（金） 18時45分～21時00分

会 場：市民文化創造館 きららホール（船橋FACEビル6階）

入場無料、どなたでも参加可能です（事前申し込み不要）

共 催：一般社団法人千葉県理学療法士会、一般社団法人千葉県作業療法士会、

一般社団法人千葉県言語聴覚士会、千葉県リハ医学懇話会

（岩本 明子）

◎○◎聴覚障害委員会◎○◎

勉強会報告『難聴乳幼児の療育について』

平成25年11月10日、千葉県こども病院において勉強会を実施し、12名の方が参加されました。

1. 『母子コミュニケーションから言葉を育てる』 千葉市療育センター 高橋 典子

難聴乳幼児の療育の基本方針は、日常の親子のコミュニケーションから言葉を育てるということです。つまり、親子が楽しく遊んだり、生活体験を共に重ねたりする中で、子ども自身が主体的に言葉を獲得していくように支援するのがSTの役割となります。また、将来の本人の障害受容に向か、この時期はまず、保護者がわが子の障害を受容して子育てができるよう支援することや、子ども自身が同じ障害の仲間を持つことが必要となります。さらに、言語力だけではなく、グループ活動などを通じて人と関わる力を育てるこも重要です。

今回、講義の後に、母子コミュニケーション指導の実際を理解しもらうため、ケースの指導場面のビデオを受講生に見てもらい、母親とSTのコミュニケーション行動を評価してもらいました。その後2グループに分かれ、難聴児とコミュニケーションを取る際のポイントを検討し、報告してもらいました。

2. 『就学に向けた難聴児の指導』

小張総合病院 新川 真紀

通常の小学校に就学する難聴児の場合、集団生活場面において様々な困難があります。幼稚園・保育園とは異なり、学校では視覚的情報で補えない場面が多くなってきます。学業や友達とのコミュニケーションへの意欲、心の安定のある生活を送れるよう、言語・コミュニケーション能力を身につけ、保護者支援や環境調整をすることが重要となります。指導では机上の課題であっても子どもが楽しんで取り組めるよう工夫が必要です。

今回、講義の中で、教材の写真や指導場面のビデオを用いて、言語・構音指導の例や、難聴児に分かりやすい指導方法を紹介しました。

就学に関しては保護者の不安や疑問について話し合うことが重要となります。担任教師へお願いする事や、難聴学級・聾学校など専門的な支援が受けられる機関等の情報提供を行います。FM補聴器の検討や、幼児期の担当STから就学先及び就学後の個別指導担当者への引き継ぎも必要となります。

3. アンケートのまとめ

千葉県こども病院 黒谷 まゆみ

今回は、参加者全員からアンケートを回収することが出来ました。勉強会の理解度について、参加者全員から「良く理解できた」または「だいたい理解できた」との回答があり、その理由として「実際の映像を見ることができたため」「療育の目指すところと、具体的な内容を知ることができたため」など、実際の指導場面のVTRが含まれていたことが勉強会のよりよい理解につながったとの回答が多く得られました。また、全ての参加者が次年度以降も勉強会の開催を希望するとの回答でした。また勉強会およびニュースのコラムの内容など聴覚障害委員会の活動に対し、「訓練指導の実際」「聴覚障害の最近の医学的知見」「中途失聴、一側性難聴への対応」などを取り上げてほしいとの意見が寄せられました。また、この勉強会が生涯学習プログラムのポイント加算の対象になることを希望するとの意見も挙げられました。

◎◎◎生涯学習プログラム作業部会◎◎◎

平成25年度 生涯学習プログラム基礎講座・専門講座千葉県版を実施

今年度の講座は、平成25年11月17日・24日に千葉市民会館で行われました。基礎講座は日本言語聴覚士協会が設定した6講座と本会が独自で企画した1講座（「言語聴覚士に求められる資質とは」小嶋 知幸先生）の合わせて7講座、専門講座は2講座（「ハイテク社会とコミュニケーションの変容—AACはどこに行くのか？—」中邑 賢龍先生、「摂食・嚥下障害のアプローチにおける吸引」長谷川 賢一先生）でした。なお、今年度も基礎講座の講師は千葉県内で活躍している言語聴覚士の方々に担当していただきました。

中邑先生の講義は、ハイテク機器が広まりつつある世の中



中邑 賢龍先生の講義風景

で、“S Tは将来を見通したセラピーへと発想を転換しなければいけない”というメッセージが込められており、経験年数を積んだ受講者にも参考になった講義でした。

今年度も基礎講座の受講希望者が多く、定員を超える参加となりました。まだ経験の浅い言語聴覚士の皆様が、臨床の基礎的な知識や心構えを学ぶ場としては最適な研修会です。

参加者は総数265名（基礎講座215名、専門講座50名）で、5割は県外からの参加の方々でした。

来年度は平成26年11月16日（日）基礎講座、11月23日（日）基礎講座・専門講座を千葉市民会館で実施することが決定しています。また、認定言語聴覚士の受講資格（専門講座終了者）にも関わっております。是非、皆様の参加をお待ちしています。

（齊藤 公人）

◇ 事務局から ◇

1. 入会のお誘い

本会に入会されていない方は、ぜひご入会くださるようお願い申し上げます。入会ご希望の方は、ホームページにて入会方法をご案内申し上げておりますのでご覧ください。また、お近くに未入会の言語聴覚士の方がいらしたら、入会をお勧めくださいますようお願い申し上げます。

2. 住所・勤務先変更届けについてのお願い

住所や勤務先など、入会時にされた登録内容に変更があるときは、お手数ですがなるべく速やかに、事務局まで郵便またはFAXにてご報告くださいますようお願いいたします。変更届は会のホームページよりダウンロードすることもできます。会よりの郵便物がお手元に届くのが遅れるなど不都合がございますので、ご協力お願いいたします。

3. リーフレットについて

本会のリーフレットを所属施設に置きたい、研修会などで配布したい等のご希望がありましたら、必要部数と連絡先を明記し、事務局までお申し込みください。追ってご連絡いたします。また本会ホームページにも掲載しており、ダウンロードもできます。

4. 新入会員のお知らせ (敬称略) 会員数：正会員364名・準会員23名・賛助会員:7団体

(平成26年1月26日 理事会承認分まで)

…正会員…

小熊 真由(船橋二和病院)

…準会員…

上甲 僚(武藏野特州園)

(届出順)

5. ツイッターやってます

ホームページの更新情報を、お届け中です。フォローよろしくお願いします。

◇ 理事会・委員会等報告 ◇

◆ 平成25年度 理事会

《第7回》

日時：2013年11月23日（土）14時15分～16時00分 場所：千葉市幕張勤労市民プラザ 教養文化室2

出席者：吉田、岩本、古川、宮下、渡邊（以上理事5名）、山本（監事）

1. 協議事項：・各部、各局の議事録承認について ・新入会員・退会について ・No. 43 ニュースについて ・秋期県士会協議会について ・ホームページについて ・千葉県内における外来摂食嚥下評価・訓練施設紹介改訂について ・後援依頼について ・ホームページの「千葉県言語聴覚の日特集」掲載について ・JAS 生涯学習プログラムの第9回基礎講座講師養成研修会について ・年賀状の準備

2. 報告事項：・千葉市より、法人市民税減免決定の通知について ・郵便物回覧

《第8回》

日時：2013年12月15日（日）13時00分～17時00分 場所：黒砂公民館 会議室

出席者：吉田、岩本、木村、酒井、鈴木、古川、宮下、渡邊（以上理事8名）、山本（監事）

1. 協議事項：・各部・各局の議事録承認について ・新入会員・退会について ・総会準備について ・介護保険委員会アンケート調査結果 ・摂食嚥下委員会研修会アンケート結果について ・千葉県内における外来摂食嚥下評価・訓練施設紹介改定について ・千葉県がんのリハビリテーション研修会の後援について ・年賀状について ・診療報酬改定の関連情報掲載について ・その他協議事項：研修会等スタッフへの昼食代について

2. 報告事項：・郵便物回覧 ・問合せについて ・高次脳機能ネットワーク連絡協議会出席依頼について ・千葉県総合支援協議会委員の募集について

《第9回》

日時：2014年1月26日（日）13時00分～17時00分 場所：黒砂公民館 和室

出席者：吉田、岩本、木村、古川、宮下、渡邊、鈴木、酒井（以上理事8名）、宇野（監事）

1. 協議事項：・各部・各局の議事録の承認について ・新入会員、退会者について ・総会準備について ・ニュース44号について ・リハビリテーション公開講座について ・船橋在宅医療ひまわりネットワークのホームページ担当について ・介護保険委員会アンケート調査結果報告について ・学術局第3回研修会アンケート集計結果について ・メーリングリストの移行について ・旅費等の規則改訂について ・第33回関東甲信越ブロック 理学療法士学会後援依頼について ・平成25年度地域リハビリテーション調整者養成研修について

2. 報告事項：・回覧郵便物 ・厚生労働省委託事業「チーム医療による災害支援」について

◆ 平成25年度 学術局

《第4回》日時：2013年11月10日（日）10時00分～12時00分 場所：プラザ菜の花

出席者：荒木、木村知希、木村佐知子、酒井、柄澤、神作、佐藤、竹中

第3回研修会スケジュール、次年度計画案の検討、平成26年度第1回研修会の検討

《第5回》日時：2014年1月19日（日）17時30分～18時20分 場所：順天堂大学医学部附属浦安病院

出席者：荒木、木村知希、木村佐知子、酒井、柄澤、神作、佐藤、竹中

第3回研修会反省、次年度計画案の検討、資料集作成について

◆ 平成25年度 社会局渉外部

《第2回》日時：2014年2月10日（月）20時00分～22時00分 場所：トレビアン船橋駅前店

出席者：鈴木、常田、渡邊

今年度の活動報告、次年度活動計画案、今後の予定

◆ 平成25年度 小児言語障害委員会

《第4回》日時：2014年1月12日（日）10時00分～12時00分 場所：千葉リハビリテーションセンター研修室

出席者：藤田、金子、戸田山、廣瀬、渡邊

今年度の反省、次年度活動計画案、今後の予定

◆ 平成25年度 介護保険委員会

《第3回》日時：2013年11月17日（日）10時00分～12時00分 場所：言語デイサービス ミカタ市川

出席者：木村、坪木、松本

・アンケート調査結果について等

《第4回》日時：2014年2月2日（日）10時00分～13時40分 場所：言語リハビリ ミカタ船橋

出席者：木村、木村、小野、坪木、平澤、松本

・アンケート調査報告について等 ・今年度活動および次年度活動計画について等

◆ 平成25年度 聴覚障害委員会

《第4回》日時：2013年10月20日（日）10時00分～13時00分 場所：千葉市療育センター やまびこルーム

出席者：常田、黒谷、新川、高橋、宮下

・ニュースに掲載するコラムについて・勉強会について・次回委員会について

《第5回》日時：2014年1月26日（日）10時00分～12時00分 場所：プラザ菜の花

出席者：黒谷、新川、高橋、宮下

・勉強会報告書について ・今年度の活動報告、会計、次年度の活動計画について ・2月に掲載予定のコラムについて ・

軽中等度難聴の補聴器購入助成制度について

◆ 平成25年度 摂食嚥下委員会

《第3回》日時：2014年2月23日（日）10時00分～11時00分 場所：順天堂大学医学部附属浦安病院

出席者：鈴木、田中、長良、相楽、酒井

・次年度計画案の検討、平成26年度研修会について

◆ 平成25年度第7回リハビリテーション公開講座

《第4回》日時：2013年9月20日（水）19時00分～21時10分 場所：千葉県理学療法士会事務所

出席者：岩本、神作 千葉県理学療法士会3名 千葉県作業療法士会2名 演者2名

・会計マニュアル確認 ・当事者団体展示 ・広報、チラシ配布先 ・講演内容 ・後援申請 ・来年度の内容

《第5回》日時：2013年11月1日（金）19時00分～21時30分 場所：千葉県理学療法士会事務所

出席者：岩本、神作、鈴木 千葉県理学療法士会2名 千葉県作業療法士会1名

・チラシデザイン ・チラシ配布先、配布方法 ・役割分担 ・情報誌掲載依頼 ・来年度内容、開催地
《第6回》日時：2013年12月3日（火）19時00分～21時30分 場所：千葉県理学療法士会事務所
出席者：岩本、神作、鈴木 千葉県理学療法士会3名 千葉県作業療法士会3名
・アンケート ・チラシ配布先 ・配布資料 ・当日スケジュール ・会場レイアウト ・来年度開催地
《第7回》日時：2014年1月22日（水）19時00分～21時30分 場所：千葉県理学療法士会事務所
出席者：岩本、神作、鈴木 千葉県理学療法士会4名 千葉県作業療法士会3名
・当日スケジュール確認 ・配布資料 ・会計 ・来年度実施要綱、予算案
《第8回》日時：2014年2月19日（水）19時00分～21時20分 場所：千葉県理学療法士会事務所
出席者：岩本、神作、鈴木 千葉県理学療法士会5名 千葉県作業療法士会3名
・4月25日延期開催について ・会計確認 ・来年度の予定について

◆ 平成25年度 地域連携部 認知症専門職研修モデル事業委員会

《第10回委員会》日時：2013年11月14日（火）出席者：治田、平山
《第1回作業部会》日時：2013年11月27日（水）出席者：平山
《初級コース第1日目》日時：2013年8月31日（土）出席者：吉田、鈴木、治田、平山
《初級コース第2日目》日時：2013年9月1日（日）出席者：鈴木、治田、平山
《中級コース第1日目》日時：2013年9月28日（土）出席者：鈴木、治田、平山
《中級コース第2日目》日時：2013年9月29日（日）出席者：鈴木、治田、平山
《中級コース第3日目》日時：2013年10月19日（土）出席者：鈴木、治田、平山
《上級コース第1日目》日時：2013年11月2日（土）出席者：鈴木、治田、平山
《上級コース第2日目》日時：2013年11月3日（日）出席者：鈴木、治田、平山
《上級コース第3日目》日時：2013年11月30日（土）出席者：鈴木、平山
《上級コース第4日目》日時：2013年12月1日（日）出席者：鈴木、平山
《施設見学実習引率第1日目》日時：2013年12月6日（金）出席者：千葉県作業療法士会1名
《施設見学実習引率第2日目》日時：2013年12月9日（月）出席者：千葉県理学療法士会1名
《施設見学実習引率第3日目》日時：2013年12月10日（火）出席者：千葉県作業療法士会1名
《施設見学実習引率第4日目》日時：2013年12月11日（水）出席者：治田
《施設見学実習引率第5日目》日時：2013年12月13日（金）出席者：鈴木
《施設見学実習引率第6日目》日時：2013年12月16日（月）出席者：平山
《施設見学実習引率第7日目》日時：2013年12月17日（火）出席者：千葉県作業療法士会1名
《施設見学報告会・修了証授与式》日時：2014年1月26日（日）出席者：吉田、鈴木、治田、平山



◆ 平成25年度 地域連携部 訪問リハビリテーション実務者研修会実行委員会

《第5回》日時：2013年10月28日（月）出席者：小野、勝又

◆ 平成25年度 地域連携部 船橋在宅医療ひまわりネットワーク

《第2回役員会》日時：2013年10月18日（金）出席者：山本

《第1回委員会》日時：2013年12月25日（金）出席者：山本

《症例検討会準備会》日時：2013年2月12日（水）出席者：山本

（紙面の都合上、報告事項と協議事項はまとめて記載しています。）

ナレーターなのに 失語症になっちゃった！

New

テレビ・ラジオの第一線で活躍の売れっ子ナレーター、沼尾ひろ子著。 2014年4月2日発行 A5版 1,200円+税

ある日突然、彼女を襲う激しい頭痛。緊急入院の先に待っていたのは「言葉が出なくなる」という過酷な現実だった…。

この最大の苦難を乗り越え、ナレーターとして復帰するまでの日々の努力と彼女を支える最愛の夫と家族、そして医師たち…。

感動のノンフィクション！

※奇跡 失くした言葉を取り戻せた！ 2008年 講談社刊 改訂版

New 探し物発見器 ここだよ

5,300円+税

簡単な操作と大きな音で「どこいった？」を解消！

「〇〇はどこへ行った？」… 探したいときに威力を発揮します。

親機のボタンを押すと探し物に取りつけてある子機から大きな音がして、簡単に発見できます。

子機は4個ついていますが、必要な子機のみ使用できます。

- ① 操作が簡単
- ② 子機からは大きな音が出るので探しやすい
- ③ 4個の子機のうち、必要な台数のみ使用できる



もの忘れが気になる方へ 新記憶サポート帳

A4変形版 1,200円+税

著：安田清

記憶サポート帳が新しくなり、記入ページが2か月から3か月分記入可能となりました。

毎日書くことで、困っていた予定のやり残しや、約束を忘れることが減ります。

言語訓練用絵カード

ActCard (ActVoice®対応) (アクトカード)

75 mm × 125 mmサイズ
絵カード 300種類

18,000円+税

New 第4巻 名詞絵カード

1・2巻に続き、やや難しい語句の名詞絵カード
300枚組で構成されています。



● 第1巻・2巻 名詞絵カード 各 18,000円+税

● 第3巻 動詞絵カード 18,000円+税

● 文字版第1巻 (アクトカード第1巻に対応) 14,000円+税

New あるがままに自閉症です

東田直樹の見つめる世界

四六版 1,000円+税

著：東田直樹



著者のブログに掲載された数多くのメッセージを厳選して加筆、書籍化。外見だけで人を判断してしまうことは多くありますが、深い内面世界を筆者の哲学的ともいえるその文章から知ることができます。

ご家族や支援する方…何よりもこれから大人になろうとしている当事者への心のこもったメッセージがここにあります。

著書「自閉症の僕がとびはねる理由」が昨年翻訳出版され、大ベストセラーとなりました。現在、翻訳出版のオファーは17カ国を数えています。今年は英文以外にも更に多数の言語で翻訳出版される予定です。



株式会社エスコアール <http://escor.co.jp>

● 上記の商品はホームページから全品送料無料でお求めいただけます。

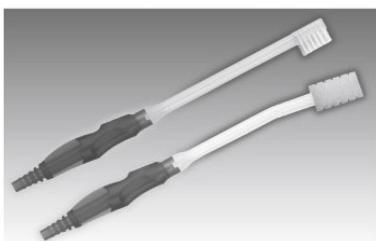
TEL 0438-30-3090 FAX 0438-30-3091

〒 292-0825 千葉県木更津市畠沢 2-36-3

マウスピュア® シリーズ 口の機能を取り戻すために



マウスピュア® シリーズ口腔ケア製品ラインナップ



吸引+歯みがき / 吸引+口腔清掃
「吸引歯ブラシ」「吸引スポンジ」



口腔清掃
「口腔ケアスponジ」



アイスマッサージ
「口腔ケア綿棒」



舌リハビリ
「口腔ケアガーゼ」



舌清掃
「フレッシュメイト KJ」

※ 製品改良のため、仕様の一部を予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

川本産業株式会社

本社 / 大阪市中央区糸屋町 2 丁目 4 番 1 号

●お客様相談窓口 06-6943-8956 (10:00~17:00 月~金ただし祝祭日を除く)

●商品に関するお問い合わせ・試供品のご要望は

マーケティング本部 06-6943-8941

<http://www.kawamoto-sangyo.co.jp>

流動食用
半固体調整食品
ペグメリン[®]

流動食に混ぜるだけ!
すばやく半固体状に調整できます。



2.5g×50包



500g (計量スプーンつき)

特長 1 流動食に混ぜるだけ!

**特長 2 添加3~5分後、再びかき混ぜることで
すばやく粘度が発現します**

特長 3 必要に応じて幅広く粘度調整ができます

特長 4 ベタつきが少ないので注入が容易です

●賞味期限：製造後 2年間

販売者
株式会社 三和化学研究所
本社/名古屋市東区東外堀町35番地 〒461-8631
TEL (052) 951-8130 FAX (052) 950-1861
SKK ●ホームページ <http://www.skk-net.com/>



補聴器のご相談は安心できる

認定補聴器専門店で!!

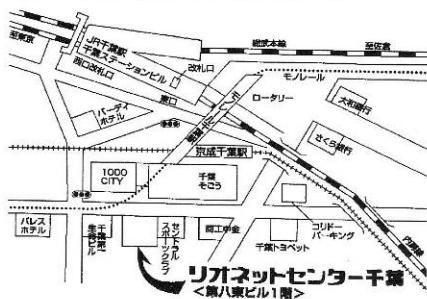
認定補聴器専門店は「認定補聴器技能者」が在籍し、補聴器をお客様の耳に合わせるための設備機器が整い「補聴器の適正供給」の運用がされ「公益財団法人テクノエイド協会」が認定したお店です。つまり経験豊かで専門的な知識と技能を持ったスタッフが、様々な機器を使い、一人ひとりのお客様の聞こえの状態に合った最適な補聴器をご提供します。



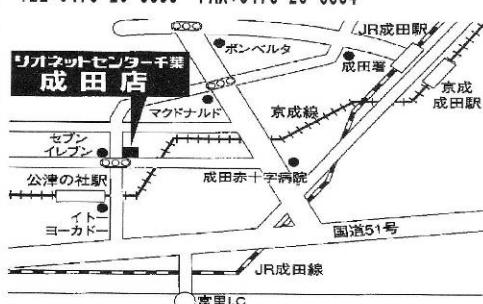
認定補聴器専門店

リオネットセンター 千葉

千葉店 : 千葉市中央区新町 18-12
TEL : 043-246-3321 FAX : 043-246-3319



成田店 : 成田市公津の杜 1-13-17
TEL : 0476-20-6633 FAX : 0476-20-6634



発行所:一般社団法人 千葉県言語聴覚士会

発行人:吉田浩滋

編集人:編集部 古川大輔

事務局:〒263-0042 千葉市稻毛区黒砂2-6-15 メゾン K102

FAX 043-243-2524

E-mail chibakenshikai@zp.moo.jp

ホームページ:<http://chibakenshikai.moo.jp/> 会員専用パスワード:affordance

印刷:社会就労センター はばたき職業センター

地域作業所 hana